

全国の減災対策協議会における防災教育（水害）の 参考事例

・本事例は、国土交通省本省の「各地域の協議会の活動の様子や先駆的な取組事例」を紹介している以下のサイトから、小中学校の防災教育事例を抽出し、分類・整理したものである。

【国土交通省HP（水防災意識社会再構築ビジョン 各地域の事例）】

<https://www.mlit.go.jp/river/mizubousaivision/case.html>

・掲載されている248事例のうち、小中学校の防災教育に関する事例36事例を抽出。 ※2023.1月時点

●参考事例一覧（目次）【1/2】

※防災教育の カテゴリー	①：水害発生等の仕組みの学習	④：避難行動の確認（訓練等）	⑦：被災記録の伝承
	②：水害リスク・対策等の学習	⑤：地域の安全・危険な場所の把握（街歩き等）	⑧：教材作成、教諭との連携等
	③：水防活動に関する体験	⑥：体験型施設の利用・見学	

*各事例のカテゴリーの分類は掲載されている資料の内容をもとに判断

NO.	対象者	取組の主な内容	防災教育のカテゴリー ※上表参照								掲載 ページ
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
1	【北海道】 標茶町立標茶小学校（6年生）	台風上陸時の行動に関する班別討議・発表	-	●	-	●	-	-	-	-	P3
2	【北海道】 音更町立木野東小学校（4年生）	水の循環、水害時の備え等に関する学習、避難訓練の実施	●	●	-	●	-	-	-	-	P4
3	【滋賀県】 栗東市立葉山小学校（6年生）	野洲川の歴史の学習、河川氾濫時の備えと行動に関する検討・発表	-	●	-	●	-	-	●	-	P5
4	【愛知県】 あま市総合防災訓練（中学・高校生）	水防工法（月の輪工法）の実施体験	-	-	●	-	-	-	-	-	P6
5	【香川県】 香川県内の学校	学校への出前講座、教育副読本の作成	-	-	-	-	-	-	-	●	P7
6	【山形県】 山形市立大郷小学校	水防災河川学習プログラムの作成	-	-	-	-	-	-	-	●	P8
7	I 【東京都】 日野市立平山小学校	ハザードマップの確認	-	●	-	-	-	-	-	-	P9
	II 【東京都】 世田谷区立砧南小学校	流水模型実験による学習	●	-	-	-	-	-	-	-	
	III 【神奈川県】 川崎市立東小田小学校	降雨体験車	-	-	-	-	-	●	-	-	
8	【京都府】 京都府立洛北高等学校附属中学校（2年生）	これからの水防災に関する講義	●	●	-	-	-	-	-	-	P10
9	【岐阜県】 海津市立大江小学校	過去の水害や適切な避難に関する学習、動くハザードマップによる避難の模擬体験	-	●	-	●	-	-	●	-	P11
10	【島根県】 江津市立桜江小学校（5年生）	被害から身を守るための説明の広聴	●	●	-	-	-	-	●	-	P12
11	【奈良県】 桜井市立三輪小学校	マイ防災マップの作成	●	●	-	-	●	-	-	-	P13
12	【大阪府】 門真市立北巣本小学校（5年生）	まるごまちごとハザードマップのテブ設置	●	●	-	-	●	-	-	-	P14
13	【北海道】 今金町立今金小学校（4年生）	模型によるダムの洪水調節の学習、カードゲームによる用語学習	●	●	-	-	-	-	-	-	P15
14	【岐阜県】 安八町立結小学校（6年生）	過去の災害についての解説	-	●	-	-	-	-	●	-	P16
15	【富山県】 富山市立新庄小学校（5年生）	常願寺川の水害の学習、浸水イメージ図・ハザードマップの確認	-	●	-	-	●	-	●	-	P17
16	【滋賀県】 体験型イベント参加者	被災想定の確認、クイズ、大雨体験、洗堰見学ツアー、巡視用車両の乗車体験	-	●	-	-	-	●	-	-	P18
17	【北海道】 下川町立下川小学校（3～4年生）	防災〇×クイズ、降雨体験、地下浸水体験、3D土砂災害体験、カラーコーンやコーンバーを用いた避難シミュレーション	-	●	-	-	-	●	-	-	P19
18	【北海道】 名寄市立風連中央小学校（3～6年生）	避難・気象に関する講話、降雨体験、流水体験、地下浸水体験、川の模型実験	●	●	-	-	-	●	-	-	P20
19	【岐阜県】 岐阜市立合渡小学校	過去の水害事例・水害対策の説明、災害対策車両の見学、土のう作り体験	-	●	●	-	-	●	●	-	P21
20	【愛知県】 豊橋市 大村こども園	緊急速報メールに合わせた避難訓練	-	-	-	●	-	-	-	-	P22
21	【香川県】 丸亀市立飯野小学校	自然災害から身を守るための備えに関する班別勉強	-	●	-	-	-	-	-	●	P23
22	【鳥取県】 倉吉市立高城小学校	過去の水害の危険性等に関する解説、排水ポンプ車の稼働実演	-	●	-	-	-	●	●	-	P24
23	【山口県】 防府市立玉祖小学校（5年生）	ハザードマップや避難時の携行品の確認	-	●	-	-	-	-	-	-	P25

●参考事例一覧（目次）【2/2】

※防災教育の カテゴリー	①：水害発生等の仕組みの学習	④：避難行動の確認（訓練等）	⑦：被災記録の伝承
	②：水害リスク・対策等の学習	⑤：地域の安全・危険な場所の把握（街歩き等）	⑧：教材作成、教諭との連携等
	③：水防活動に関する体験	⑥：体験型施設の利用・見学	

*各事例のカテゴリーの分類は掲載されている資料の内容をもとに判断

NO.	対象者	取組の主な内容	防災教育のカテゴリー ※上表参照								掲載 ページ
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
24	【北海道】釧路管内の小・中学校の教諭	教諭による川の防災教育に関する意見交換会	-	-	-	-	-	-	-	●	P26
25	【北海道】北見市立小泉小学校（5、6年生）	模型実験、マイハザードマップの作成、災害図上訓練（DIG）	-	●	-	●	●	-	-	-	P27
26	【福井県】福井県内の小学生	我が家の防災コンテスト（防災マップの作成）	-	●	-	-	●	●	-	-	P28
27	【兵庫県】豊岡市立八条小学校（5年生）	紙芝居「台風がきたぞ」による台風への備えの学習、災害実験（洪水実験、台風発生実験、土石流実験）、災害時の行動検討、被災写真のパネル展示	●	●	-	●	-	●	●	-	P29
28	【愛媛県】大洲市菅田小学校（5年生）	平成30年7月豪雨の被災児童への質問会とフォローアップ	-	●	-	-	-	-	-	-	P30
29	【徳島県】徳島県立那賀高等学校（防災クラブ）	那賀川の水害等に関する座学、簡易水質調査、ドローン操作体験、高水流観の実習	-	●	-	-	-	●	-	-	P31
30	I 【茨城県】常総市立玉小学校（5、6年生）	若宮戸工事現場見学	-	-	-	-	-	●	-	-	P32
	II 【茨城県】結城市立絹川小学校（4年生）	洪水時に気をつけることの説明	-	●	-	-	-	-	-	-	
	III 【茨城県】常総市立石下中学校（2年生）	防災、減災に関する教育	-	●	-	-	-	-	-	-	
	IV 【茨城県】筑西市立養蚕小学校	大雨洪水時の避難訓練	-	-	-	●	-	-	-	-	
	V 【茨城県】筑西市立河間小学校	洪水時に気をつけることの説明	-	●	-	-	-	-	-	-	
31	【岐阜県】養老町立養老小学校（5年生）	アニメ・模型による土砂災害の危険性の学習、防災カードゲームの体験（土砂災害）	●	●	-	●	-	-	-	-	P33
32	【岐阜県】岐阜市立岐阜小学校（4年生）	マイ・タイムラインの作成、避難時の行動についての話し合い	-	●	-	●	-	-	-	-	P34
33	【静岡県】沼津市立大平小学校（4年生）	ハザードマップの確認、「語り部」による狩野川台風の水害体験談	-	●	-	●	-	-	●	-	P35
34	【大分県】大分市立戸次中学校（ふれあいPTA）	ワークショップ形式での通学路における防災マップづくり	-	●	-	-	●	-	-	-	P36
35	【静岡県】静岡市立井宮小学校	副読本「徳川家康公と安部川物語」を用いた河川防災講座	-	●	-	-	-	-	-	●	P37
36	【北海道】音更町立木野東小学校（4年生）	ハザードマップの確認、避難路の街歩き（H28）	-	●	-	-	●	-	-	-	P38

No.	1	対象者		【北海道】 標茶町立標茶小学校（6年生）				
主な取組	台風上陸時の行動に関する班別討議・発表							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	●	-	-	-	-

授業で学ぶ「川の防災」～命を守る行動は「僕たち」が考えるぞ！



出前講座だけに頼らずに防災学習を学ぶ試みとして、児童自ら考える防災授業が実施されました。1時間目に基礎学習、2時間目は先生からのお題をもとに班別討議を行い、事前の防災行動等について発表しました。

児童らは、5学年時に川のはたらき等の勉強しています。今回の発表では「①情報を入手する」、「②入手した情報をもとに起こす行動」、「③災害時に行動するために普段からやれること」にまとめられるなど、継続することで防災への意識高揚が図られてきていると実感しました。

・実施日 平成29年11月22日（水）
標茶小学校（第6学年）

【川の防災学習】※今回の基本セット

1時間目

- ・大雨や災害時の社会（国・道や市町村等）の役割を学ぶ
- ・大雨時にメディア等から得られる情報の意味を学ぶ

2時間目

- ・台風上陸等を想定した班別討議（アクティブラーニング）
- ・とりまとめ発表



今日の授業のテーマ
「超大型台風が道東地方を
通過する予報！」
学校は臨時休校、家族も不在、
家には1人！さあどうする？



僕たちが考えた
行動です！



自然災害から命を守るためには幼少期からの防災教育が重要であり、災害対応の実務を担う釧路開発建設部では、学校教育における川の防災教育の支援を積極的に行っています。

No.	3	対象者		【滋賀県】栗東市立葉山小学校（6年生）				
主な取組	野洲川の歴史の学習、河川氾濫時の備えと行動に関する検討・発表							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	●	-	-	●	-


**水防災意識社会
再構築ビジョン**

水防災教育の授業を行いました。

～小学校と国土交通省との連携による防災教育の授業～ R1.7.16 琵琶湖河川事務所

▶ 栗東市立葉山小学校では、水防災意識社会再構築ビジョンのモデル校として、昨年度より国土交通省と連携し水防災教育の授業づくりに取り組んでいます。昨年度、水防災に関する授業を受けた6年生に対して、水災害を防ぐために国や地方公共団体がどのような取組みを行っているか説明し、小学校区を流れる野洲川が氾濫した時の備えとして行動すべき事について、児童に考えてもらいました。

○ 日 時：令和元年7月16日（火）10:45～11:30

○ 場 所：栗東市立葉山小学校 6年2組教室

○ 参加者：葉山小学校6年2組児童37名・校長・教員、栗東市職員1名
琵琶湖河川事務所職員2名、ケーブルテレビ局(ZTV)



位置図
琵琶湖
栗東市立葉山小学校

【授業の内容】

- 野洲川の歴史について説明しました。
- 水災害に強い地域を目指して取り組んでいる野洲川の堤防強化のハード対策について説明しました。
- 施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するという意識を持つてもらいました。

過去の水害による被災写真から、児童が『わかったこと』『気づいたこと』『思ったこと』を書いて発表しました。



授業後の生徒の意見

- ・自分たちができることは、すぐに避難することやこまめに情報を確認することだと思った。
- ・最終的に自分を守るのは自分しかないので日ごろから準備を続けていきたい。
- ・自然の災害のことをすぐに伝えてくれる電子機器などを使って、常に気を付けていきたいと思った。
- ・自分でもハザードマップや情報を集めて、即座に避難などできるように努力をしていきたい。

児童はケーブルテレビ局（ZTV）のインタビューに答えました。







今年2019年は、
野洲川放水路
通水40年！

【問合せ先】 国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所 調査課
〒520-2279 大津市黒津4-5-1 ☎077-546-0844（代表）



No.	4	対象者		【愛知県】あま市総合防災訓練(中学・高校生)				
主な取組	水防工法（月の輪工法）の実施体験							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	-	●	-	-	-	-	-

あま市総合防災訓練に参加しました。 国土交通省

令和元年8月24日、あま市総合防災訓練が開催され、庄内川河川事務所が保有している照明車を派遣しました。日没後の会場で、庄内川河川事務所の照明車が明るく照らし出す中で行われた倒壊家屋からの救出救助訓練では、国、自衛隊、消防等による連携を地域住民が見学しました。



訓練本部長 村上あま市長の
訓練開始宣言



地元中学生、高校生による水防工法(月の輪工)



自衛隊による露天風呂(足湯)設営訓練と体験



ドローン映像視聴体験中の
西田庄内川河川事務所長



日没後の救助訓練を照らし出す照明車



関係機関の連携による救助訓練



関係機関の連携による救助訓練を見学する自主防災会のみなさん

No.	5	対象者		【香川県】香川県内の学校				
主な取組	学校への出前講座、教育副読本の作成							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	-	-	-	-	-	-	●

3 要配慮者利用施設における避難確保計画作成・避難訓練実施の促進

【県の取組紹介】 防災教育の促進

学習指導要領の変更により、令和2年度より自然災害に関する内容の学習が、小学校4年生から必須となり、自然災害への様々な取組み等について学んでいく。

今後、学校関係者からの要望等に応じて、市や県が協力して防災教育へ取り組む。

【防災教育のポイント】

- ・自助、共助、公助について
- ・県内の過去の災害事例
- ・ハード対策（河川改修工事、土砂災害対策工事 等）
- ・ソフト対策（ハザードマップ、かがわ防災Webポータル 等）
- ・地域の取組み（自主防災組織、地区防災計画、防災訓練 等）
- ・避難行動（日頃の備え、マイタイムライン 等）

【県の取組み】

- ・学校への出前講座
- ・教育副読本の作成

【市町の取組み 例】

- ・学校への出前講座
- ・地域の関係機関等との連携（自主防災組織等）
- ・防災訓練での連携



出前講座の状況



降雨体験車の派遣



教育副読本

No.	6	対象者		【山形県】山形市立大郷小学校				
主な取組	水防災河川学習プログラムの作成							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	-	-	-	-	-	-	●

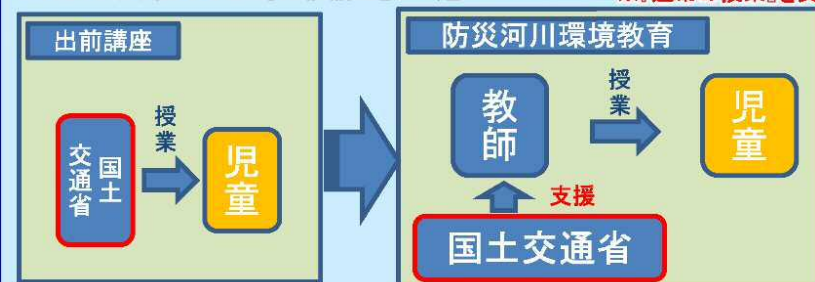
「教育現場における防災学習を支援」～防災教育支援の取り組み～

1. 経緯／概要

- 最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会では、教育機関等と連携し**最上川の水害を伝承**するとともに、**地域防災力の核となる人材を育成**していくことを目的に、水防災に関する知識の普及に取り組んでいます。
- 平成30年2月に「防災教育検討会」を設立し、山形市立大郷小学校を支援校として防災教育に取り組み、計2回の公開授業（社会1回、理科1回）、計3回の検討会を経て、平成31年3月に「水防災河川学習プログラム」が完成し、管内の小学校への配布に先駆けて山形市教育委員会との「配布式」を行いました。

これまで取り組んできた『出前講座』との違いは…

※『通常の授業』を支援



■これまでの取り組み経緯及び今後の予定

平成30年	2月	第1回防災教育検討会
平成30年	5月	第2回防災教育検討会
平成30年	7月	社会科 公開授業
平成30年	9月	理科 公開授業
平成30年	11月	第3回防災教育検討会
平成31年	2月	学習プログラム作成
平成31年	3月	学習プログラム完成
平成31年	4月	最上川上流（置賜・村山地区） 教育委員会・小学校へ配布 学習プログラムを山形河川国道事務所 HPに公開（資料はダウンロード可）

2. 公開授業・委員会・ 配布式の様子

公開授業・検討会を経て作成した「水防災河川学習プログラム」を各小学校等への配布に先駆け、山形河川国道事務所長より、山形市教育長へ「水防災河川学習プログラム」が配布されました。



【平成30年7月12日
公開授業（社会）】



【平成30年9月13日
公開授業（理科）】



【平成30年11月19日
第3回防災教育検討会】



【平成31年4月23日 配布式
山形河川国道事務所長より山形市
教育長へ学習プログラムを配布】

No.	7	対象者	Ⅰ【東京都】日野市立平山小学校 Ⅱ【東京都】世田谷区立砧南小学校 Ⅲ【神奈川県】川崎市立東小田小学校					
主な取組	Ⅰ ハザードマップの確認 Ⅱ 流水模型実験による学習 Ⅲ 降雨体験車							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	Ⅰ -	●	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ ●	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅲ -	-	-	-	-	●	-	-

1. 逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組

水防災教育の実施（支援資料を用いた試行授業の実施）

「水防災意識再構築ビジョン」の取組の1つである「逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動の取組」として、実際に防災教育を行う教員が授業で活用できる支援資料を作成し、モデル校である日野市立平山小学校、世田谷区立砧南小学校、川崎市立東小田小学校において、防災教育の試行授業を実施しました。

支援資料には地域性を持たせ、降雨体験車や模型を用いることで、生徒の理解が深まる工夫をしました。



日野市立平山小学校
ハザードマップで地域の浸水深・避難所を確認



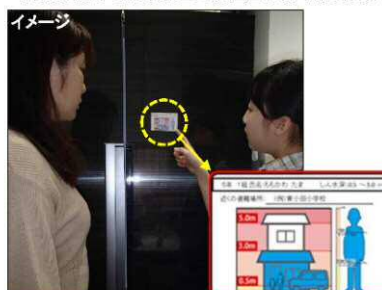
川崎市立東小田小学校
降雨体験車で洪水発生の要因となる大雨を体験



世田谷区立砧南小学校
流水模型実験装置を用いた「流れる水の働き」の学習



地域性を持たせた支援資料



自宅の浸水深を理解するために、
「マイハザードマップ」を作成し、家族と共有

先生からのご意見

- ・地域の洪水写真は検索しても見つからないため、提供はありがたい。
- ・自分が住んでいる地域に関する学習は、生徒に“自分事”として捉えてもらえた。
- ・マイハザードマップは保護者面談で話題になるなど、家庭への波及効果がみられた。

生徒の感想

- ・「逃げる場所が分からない」ということがないように、家族で逃げる場所をあらかじめ確認しておきたい。

No.	8	対象者		【京都府】 京都府立洛北高等学校附属中学校(2年生)				
主な取組	これからの水防災に関する講義							
防災教育の カテゴリ	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	●	●	-	-	-	-	-	-



琵琶湖河川事務所は、平成18年度より京都府立洛北高等学校附属中学校（以下、「附属中学校」）の生徒に出前講座を行っており、今年度で連続13回目です。
附属中学校は、中高一貫教育の基本コンセプトを「SCIENCE」とし、文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクールの指定を受け、数学・理科学分野において特色ある教育活動を展開しています。前身の旧制中学校の卒業生には湯川秀樹、朝永振一郎というノーベル物理学賞受賞者がおられます。
平成30年度も学校からのご依頼を受け、「琵琶湖・淀川水系の治水・利水・環境・水防災の概要」として琵琶湖河川事務所の事業概要に加えて、これからの水防災に関する講義を実施しました。

【概 要】

- 日 時：平成31年2月13日（水）13:25～15:15
- 場 所：京都府立洛北高等学校附属中学校（京都市左京区下鴨梅ノ木町59番地）
- 対 象：2年生 約80名
- テーマ：「琵琶湖・淀川水系の治水・利水・環境・水防災の概要 ～これまでとこれから～」



浸水想定区域図や避難の説明

琵琶湖・淀川水系の概要講座

琵琶湖の環境の講座

【生徒からの質問・感想】

- ・大雨の時、琵琶湖の水位は1日に何センチくらい上昇するのか。
- ・現在、琵琶湖は滋賀県にあるが、始まりは違う位置で徐々に移動してきたのだと聞いた。元は川だったのか。なりたちがもっと知りたい。
- ・琵琶湖では外来魚増加の対策として回収ボックスが置いてあると聞いたが、回収された外来魚はどのように処理をされているのか。



2019年は、
野洲川放水路
通水40年！

【問合せ先】国土交通省 近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所 調査課
〒520-2279 大津市黒津4-5-1 ☎077-546-0844(代表)



No.	9	対象者		【岐阜県】海津市立大江小学校				
主な取組	過去の水害や適切な避難に関する学習、 動くハザードマップによる避難の模擬体験							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	●	-	-	●	-

木曽川下流水防災協議会

海津市立大江小学校全校生徒、保護者を対象とした「水防災学習会」を開催

国土交通省
木曽川下流河川事務所

- 「施設では守り切れない大洪水は必ず発生するもの」へ意識を変革し、社会全体で洪水に備えること。また、大規模水害に対し「逃げ遅れゼロ」を目指すために、小中学生向けの防災教育を実施して、水防災の意識を低年齢層から浸透することを目的として、海津市立大江小学校全校生徒、保護者を対象とした「水防災学習会」を開催しました。この「水防災学習会」は、学習会（スライド形式、クイズ形式）、体験学習の構成内容で実施しました。
- より効果的な学習会となるように流域市町村と連携して今後も継続的に実施予定。

- ・実施日：平成30年11月10日（土）10:30～11:25
- ・実施箇所：岐阜県海津市立大江小学校
- ・参加者：全校生徒 59名、保護者 60名、学校関係者（全体で約130名）
- ・学習内容：大雨、台風等に伴う水災害の危険を理解すると共に、大型台風時の状況をシミュレーションを活用して学び、より迅速な避難行動に結びつける学習内容で構成
 【学習会（スライドを使用した学習）】「濃尾平野の特長と過去の水害」、「先人達の治水の工夫」、「輪中堤の特長」
 【学習会（クイズ形式による学習）】「避難情報伝達と適切な避難の方法について」
 【体験学習】「動くハザードマップ」



【当日の学習会の様子】



【クイズ形式による学習の様子】
（質問に対して挙手をする児童、保護者）



【動くハザードマップ】を活用して避難の
模擬体験を学習

当日の学習会ではクイズ形式による学習により、水防災に対する理解を深め、「水が10cm溜まっただけでもとても危険な状況になる。」、「大雨が降った時には速く逃げる。」などのいろいろな考え、意見を発表して頂きました。

No.	10	対象者		【島根県】江津市立桜江小学校（5年生）				
主な取組	被害から身を守るための説明の広聴							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	●	●	-	-	-	-	●	-

や と が わ
平成30年7月豪雨について（八戸川） ～流域内の小学校で出前講座を行いました～

平成30年7月豪雨で浸水被害を受けた江津市桜江町にある桜江小学校において、理科の授業（流れる水の働き）の一環で「なぜ川があふれるのか？」、「川があふれないための対策は？」、「被害から身を守るには？」のテーマで5年生23名を対象に出前講座を行いました。



実施日：平成30年11月5日（火）
対 象：江津市立桜江小学校 5年生23名

【出前講座の内容】

○7月豪雨で浸水したメカニズム

八戸川で実際にどのようなことが起こったのか

○治水対策事例の紹介

桜江町の小谷川トンネル放水路の効果

○被害から身を守るための説明

日頃からの準備の大切さ

災害時の情報収集方法など

出前講座の様子



平成30年7月豪雨の様子



ひなん場所を知るには



小学校の近くを流れる八戸川を例にした話であったため熱心に話を聞いてくれました。
雨が止んでも、江の川の水位上昇により八戸川があふれてしまうメカニズム や 防災クイズなどを通じて、被害から身を守るために必要なことをしっかり理解してもらえました。

No.	1 1	対象者	【奈良県】桜井市立三輪小学校					
主な取組	マイ防災マップの作成							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	●	●	-	-	●	-	-	-

水防災意識社会
再構築ビジョン

桜井市立 三輪小学校において 防災学習を開催しました

～『迅速、的確かつ主体的な避難』と『確実な水防対応』ができる地域社会を目指して～
奈良県

大和川上流部
大規模氾濫に関する
減災対策協議会

平成30年6月25日(月)桜井市立三輪小学校の約180名の生徒を対象に、水害や土砂災害に関する防災学習を行いました。

奈良県職員の講演による“水害や土砂災害への備え”について学習した後、分団毎に分かれて通学経路において気を付けるべきポイントなどを実際の洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域が入った地図を使って、ワークショップを行いました。

概要

■日 時:平成30年6月25日(月)
13:50～14:35

■当日のスケジュール(5時間目)

- 13:50 校長先生の挨拶
- 13:55 水害に関する講座
- 14:05 土砂災害に関する講座
- 14:15 分団に分かれてマップ確認
- 14:35 終わりの挨拶

～参加した生徒や先生の声～

・もしも大雨がふって、家のまわりが洪水になってしまったらハザードマップを見て土砂くずれがおこらないところを見て安全にひなんしたいと思いました。(6年生)

・土砂災害にも色々な種類があることがわかった。家では防災グッズを準備していないので、準備しないといけないと思った。(5年生)

・河川災害、土砂災害がおきたらどうするかを、お父さんと一緒に考えようと思いました。(4年生)

・地図を見たとき、わたしの家が、河川災害があったので、気をつけて家に行かないといけないと思いました。(3年生)

・がけくずれになりやすいところは近づいてはいけないとわかったので、ぜったいにきをつけながらあるいたほうが良いとおもいます。(2年生)

・安全だと思っていた自分の身の回りにも、様々な危険箇所があることが分かった。生徒たちの災害に対する意識も変わってくると思うので、とてもいい機会でした。(先生)



写真1. 校長先生の挨拶



写真2. 水害に関する講座



写真3. 土砂災害に関する講座



写真4. 地図で通学路の確認



写真5. 分団に分かれてワークショップ



写真6. 生徒が記入したマップ



写真7. 学校関係者の会議に参加

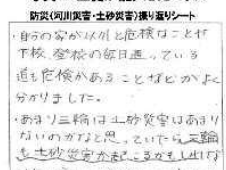
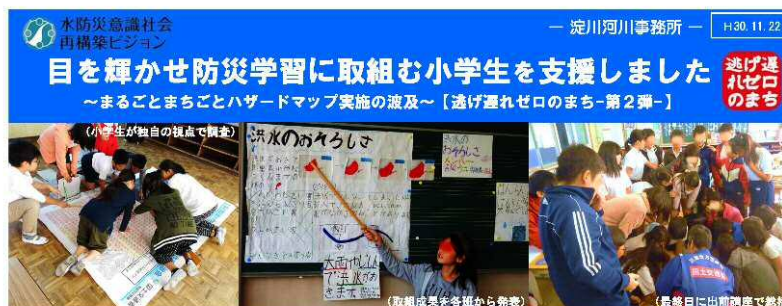
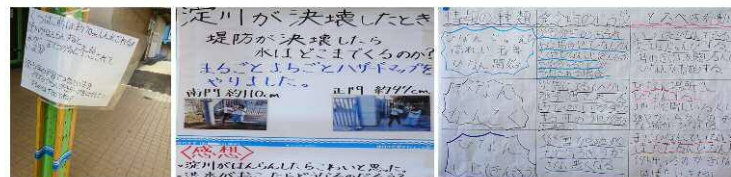


写真8. 振り廻りシートの挨拶

No.	1 2	対象者		【大阪府】門真市立北巣本小学校（5年生）				
主な取組	まるごまちごとハザードマップのテープ設置							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	●	●	-	-	●	-	-	-



- 想定浸水位に青色テープを線状に貼る「発展型まるごまちごとハザードマップ」を、9月23日に門真市城垣町（北巣本小学校の周辺）で実施しました。
- この青色テープの取組みがきっかけで、北巣本小学校では5年生の総合学習のテーマに「淀川の氾濫」が加えられ、防災学習の教材に活用できる素材として淀川河川事務所から資料やデータ等を提供しました。
- 10月より淀川の水災害に関して7つのテーマに班分けされた小学生が独自の視点で熱心に探究し、11月16日の参観日に取組成果が発表されました。
- 総括として11月20日に淀川河川事務所が出前講座を実施し、成果発表の「講評」や、周辺地形の特性、洪水の仕組み、心構え等を「説明」しました。



淀川河川事務所が提供した青色テープを小学生が活用して、地域の浸水リスクを実感し、避難行動を整理した事例

【参考】北巣本小学校で実施した防災の広報活動

発展型まるごまちハザードマップ揭示期間中の運動会(10/3)において地域の皆様へ広報活動を実施しました



【出前講座の実施概要】

実施日時：平成30年11月20日(火) 9:35～10:20
実施場所：門真市立北巣本小学校
参加者：5年生の皆さん
講演内容：総合学習の発表会と、淀川の水災害について

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
淀川河川事務所 調査課
〒573-1191 枚方市新町2-2-10
TEL 072-843-2861

No.	1 3	対象者		【北海道】今金町立今金小学校（4年生）				
主な取組	模型によるダムの洪水調節の学習、カードゲームによる用語学習							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	●	●	-	-	-	-	-	-

ダムが洪水から暮らしを守る～出前講座による小学生を対象とした防災教育～

美利河ダムでは、後志利別川流域の小学校において「**防災教育の支援**（教材となる資料の提供、授業のサポート）」を行い、「総合的な学習の時間」で4年生27名が「美利河ダムの目的」、「ダムが防災で果たす役割」及び「ダム放流のときの注意点」などを学びました。

■ 開催日時 平成30年11月26日（月） 3～4時 限目（90分）

■ 実施場所 今金小学校 ■ 参加者数 27名（4年生）

■ 参加機関 主催：今金小学校 支援：美利河ダム管理支所

※使用した教材は、美利河ダムと小学校の先生が事前に打合せを行いました。

防災教育の様子



ダムの目的や防災について学習



ダム模型を使った洪水調節の学習



美利河ダムで考えたカードゲームを使った防災用語の学習



振り返り学習

使用した教材



アンケート結果（一例）

Q 学校で洪水と防災について勉強することは必要だと思いますか？



約9割の児童が「洪水と防災」について学ぶことの大切さを実感していました！

No.	1 4	対象者		【岐阜県】安八町立結小学校（6年生）				
主な取組	過去の災害についての解説							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	-	-	-	●	-



木曽川上流水防災協議会の取り組みの一環として

安八町立結小学校で防災教育を実施(9.12災害について)



木曽川上流河川事務所が取り組む防災・河川環境教育のモデル校である安八町立結小学校(6年生:45名対象)において、総合的な学習の時間として、9月12日に防災教育(S51.9.12災害について等)を実施しました。

- 日 時：平成30年9月12日(水) 10:40～12:00(80分)
- 場 所：安八町立結小学校
- 対 象：結小学校6年生 ※全学級(2クラス:45名)対象
- 内 容：①S51.9.12災害について
②岐阜県の災害について(S51.9.12災害以降)
③国土交通省の取り組みについて

①S51.9.12災害について



S51.9.12災害の概要について説明

当時の映像や写真を視聴

～みんなの声～

- ・水害から命を守るために、雨が降ったら川に近づかないようにしたいです。
- ・国土交通省の人たちは、パトロールをしたり、堤防をきちんとしたりする活動をしていることが分かりました。
- ・お話を聞いて、9.12災害のこわさがよく分かりました。
- ・災害の時の避難の仕方を知りたいと思いました。
- ・9.12災害はこんなにも大きな災害だったんだなあとびっくりしました。

②岐阜県の災害について (S51.9.12以降)



- S51.9.12災害以降の岐阜県で起こった災害等について紹介
- ・平成14年の揖斐川流域、平成16年の長良川流域の水害について
 - ・平成30年7月豪雨について

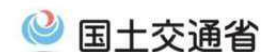
③国土交通省の取り組みについて



国土交通省が普段から行っている取り組み(河川パトロール、ライブカメラ、河川改修工事等)について、クイズ型式で紹介。

No.	15	対象者		【富山県】富山市立新庄小学校（5年生）				
主な取組	常願寺川の水害の学習、浸水イメージ図・ハザードマップの確認							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	-	●	-	●	-

富山市立新庄小学校で防災教育を実施（富山河川国道事務所）



「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく主な取組である「小中学校等における水災害教育を実施」として、平成30年9月21日に富山市立新庄小学校の5年生の授業において、台風の情報や洪水ハザードマップの見方について、生徒の皆さんに理解を深めてもらうとともに、水害から身を守るための行動について学びました。
今回の授業では、富山河川国道事務所と同様に防災教育支援の取り組みを行っている**富山市と富山地方気象台のご協力を得て**実施しました。

【水害に備えよう】 富山河川国道事務所



過去に常願寺川で発生した水害や「いのち」を守るための避難行動について学びました。

【ハザードマップを確認しよう】 富山市



ハザードマップを配布し、避難場所とルートの確認、非常時の持ち出し品について学習しました。

【台風のことをもっと知ろう】 富山地方気象台



台風の進路や最新の気象情報、台風は恐ろしいことばかりではなく、水不足の解消などメリットについて一緒に考えました。

新庄小が浸水したら（平常時）



新庄小が浸水したら（50cm）



子供たちに理解して頂くため、浸水した場合のイメージ図を作成

授業を受けた児童からは、
○早く逃げるのが大切
○避難する建物を確認
などの感想がありました。

No.	1 6	対象者		【滋賀県】体験型イベント参加者				
主な取組	被災想定の確認、クイズ、大雨体験、洗堰見学ツアー、巡視用車両の乗車体験							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	-	-	●	-	-

**水防災意識社会
再構築ビジョン** **目で見て体で感じて防災を学ぼう！** H30.7.21-22
～ 第11回水辺の匠を通じた防災学習 ～ 琵琶湖河川事務所

▶ 7月21日(土)、22日(日)に開かれた住民団体との共同開催イベント「第11回 水辺の匠」において、防災や避難行動に関するクイズや洗堰見学ツアーなど、「防災」をテーマとして、来場者
 に実際、目で見て、体で感じてもらいイベントを実施しました。
 ▶ 平成30年7月豪雨を踏まえ、防災意識や日頃から災害に備える大切
 さなどについて説明し、身近なこととして感じていただきました。

● 日時：平成30年7月21日(土)・22日(日) 9:30～16:00
 ● 場所：水のめぐみ館「アクア琵琶湖」、瀬田川洗堰など（滋賀県大津市）
 ● イベントへの来場者総数：「第11回水辺の匠」約2,000名



学習する



氾濫シミュレーションモニターで大雨が降ったときの状況を説明
 浸水想定区域図の見方などを学習
 防災や避難行動をクイズ形式で判りやすく学習

体験する



想定規模を超えた雨など4種類の大雨を体験
 洗堰で実際に流れ出る水の量を体験
 巡視用車両の乗車体験

感想

- ・ 最近いろいろなところで大雨による災害が起きているので人ごとではないなと感じた。
- ・ 氾濫シミュレーションモニターで自分の住んでいるところが大丈夫が見ることができてよかった。
- ・ クイズの中で、家が浸水するかも知れないときの自分が思っていた避難行動は適切じゃないということを知ることができた。
- ・ 平成30年7月豪雨で、洗堰を全開させて流した水の量がどれだけすごい量だったのかわかった。

【水防災意識社会再構築】大規模水害が起これば、また、琵琶湖水位の影響を受け浸水が長期に及ぶことを念頭に、自ら行動し、地域の防災力を高め、社会経済被害を最小化するための取り組みを実施し、水害に強い地域を目指します。

【問合せ先】国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所調査課
 ☎520-2279大津市黒津4-5-1 ☎077-546-0867

平成30年7月豪雨
 琵琶湖水位
 2019年
 琵琶湖水位
 2019年

No.	17	対象者		【北海道】下川町立下川小学校（3～4年生）				
主な取組	防災〇×クイズ、降雨体験、地下浸水体験、3D土砂災害体験、カラーコーンやコーンバーを用いた避難シミュレーション							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	-	-	●	-	-

【北海道】天塩川上流の減災に関する取組の実施状況

小・中学生を対象とした天塩川の洪水の特徴を踏まえた防災教育を実施

- 天塩川上流減災対策協議会において策定した、減災に関する取組方針の「概ね5年で実施する取組」に基づき、天塩川上流水防学習会を下川町立下川小学校と下川町バスターミナルにおいて実施。
- 「降雨体験装置」、「地下浸水体験装置」等を用いた体験学習のほか、防災クイズの学習会を実施。自主防災意識の向上を図った。
- 流域市町村と連携して今後も継続的に実施。

実施日：平成30年9月27日（木）
 場所：下川町バスターミナル
 参加機関：下川町、旭川開発建設部名寄河川事務所
 参加人数：約50名（下川町立下川小学校3～4年生及び教職員ほか）
 実施内容：（学習会）
 「防災〇×クイズ」
 （体験学習）
 「降雨体験」・「地下浸水体験」・「3D土砂災害体験」・「避難シミュレーション」



防災〇×クイズ



降雨体験



地下浸水体験



避難シミュレーション

■アンケート結果：

- ・早くひなんすることが大切だと思った。どしゃで、家がこわれてしまっても、もしそこに人がいたら、命を落としてしまうかもしれないところがとてもこわく感じた。
- ・防災のことをクイズにされていてとても楽しかったですが、もし同じことになりそうだったらはやめのひなんをして身の安全を守ろうと思いました。

No.	18	対象者		【北海道】名寄市立風連中央小学校（3～6年生）				
主な取組	避難・気象に関する講話、降雨体験、流水体験、地下浸水体験、川の模型実験							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	●	●	-	-	-	●	-	-

【北海道】天塩川上流の減災に関する取組の実施状況

小・中学生を対象とした天塩川の洪水の特徴を踏まえた防災教育を実施

- 天塩川上流減災対策協議会において策定した、減災に関する取組方針の「概ね5年で実施する取組」に基づき、天塩川上流水防学習会を名寄市立風連中央小学校において実施。
- 「降雨体験装置」、「地下浸水体験装置」等を用いた体験学習のほか、気象についての講話や名寄市洪水ハザードマップを用いた学習会を実施。自主防災意識の向上を図った。
- 流域市町村と連携して今後も継続的に実施。

実施日：平成30年7月18日（水）
 場所：名寄市立風連中央小学校
 参加機関：名寄市、旭川地方気象台、旭川開発建設部名寄河川事務所
 参加人数：約120名（風連中央小学校3～6年生、下多寄小学校3～5年生及び教職員ほか）
 実施内容：（学習会）
 「洪水から身を守るために」
 「天気が急に変ったら……局地的大雨の怖さ」
 （体験学習）
 「降雨体験」・「流水体験」・「地下浸水体験」・
 「川の模型実験」



■アンケート結果：
 雨がどういう時に降るのかがわかった。今度、出かける時は天気予報を見て確認しようと思った。
 （降雨体験装置を経験して）ただ立っているだけなら大丈夫だけど、その中で、避難するのは大変だと思った。
 （流水体験装置を経験して）川の流れが一番強い所で流されそうになった。川のこわさがわかった。

No.	19	対象者		【岐阜県】岐阜市立合渡小学校				
主な取組	過去の水害事例・水害対策の説明、災害対策車両の見学、土のう作り体験							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	●	-	-	●	●	-



木曽川上流水防災協議会の取り組みの一環として
岐阜市立合渡小学校で防災教育を実施



岐阜市立合渡小学校の「防災キャンプ」において、全校生徒約350名を対象に、「防災出前講座（過去の水害事例や水害時の対策について等）」及び「災害対策車両の見学会」等を実施しました。

- 日 時：平成30年6月29日（金） 14:30～20:30
- 場 所：岐阜市立合渡小学校
- 対 象：全校生徒（約350名）
- 参 加：国土交通省木曽川上流河川事務所
合渡水防団の皆様、巴産業株式会社の皆様
- 内 容：合渡小学校が実施する「防災キャンプ」において、
防災出前講座、災害対策車両の見学会等を実施
- その他：多くの保護者や地域の方々にもご参加いただきました。

●詳 細

- (1) 防災出前講座（過去の水害事例や水害時の対策について等）
- (2) 災害対策車両の見学会等（5班に分かれて見学）
 - ①対策本部車：車両の拡張、拡張後の車内を見学
 - ②排水ポンプ車：プールにおいて実排水を見学
 - ③照明車：児童達が照明の操作体験を実施
 - ④土のう作り体験：合渡水防団の方が講師を行いました
 - ⑤ドローン、高所作業車等：巴産業株式会社が実施しました
- (3) 夜間避難訓練等での照明点灯：照明の威力を感じてもらいました

長良川第一出張所
馬場所長

(1) 防災出前講座



(2) ②排水ポンプ車の見学



(2) ④土のう作り体験



(2) ⑤高所作業車等の見学



(2) ①対策本部車の見学



(2) ③照明車の操作体験



(2) ⑤ドローンによる記念撮影



(3) 夜間訓練での照明の点灯



～みんなの声「感想」～

- ・排水ポンプ車の能力（水の出る量）がすごかった！
- ・水害から身を守る道具について教えてもらった！

- ・災害時に備えて、いろいろな人が支えてくれていることが分かった！
- ・普段出来ないこと、普段見れない車両など、貴重な体験ができた！

No.	20	対象者		【愛知県】豊橋市 大村こども園				
主な取組	緊急速報メールに合わせた避難訓練							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	-	-	●	-	-	-	-

豊川流域における緊急速報メールの配信訓練



豊橋河川事務所では、流域住民の主体的な避難を促進するために、平成29年5月1日から、豊川水系豊川及び豊川放水路流域自治体、矢作川水系矢作川流域自治体において、洪水情報のプッシュ型配信を行っています。

○緊急速報メールを活用した洪水情報のプッシュ型配信訓練

【開催概要】

＜日 時＞平成30年5月30日（水）
午前10:30頃（国土交通省配信）
10:35頃（豊橋市配信）
＜配信エリア＞豊橋市・豊川市全域
＜内 容＞自治体の避難情報（エリアメール）と連動した訓練を実施。
国土交通省からは豊川の水位が上昇し「氾濫危険水位」を超えた内容を、市からは洪水により避難を促す内容の緊急速報メールを送信しました。

愛知県初の取り組みです



洪水情報のプッシュ型配信イメージ

緊急速報
【演習】河川氾濫のおそれ
豊川の当古観測所（豊川市当古町）付近で水位が上昇し、避難勧告等の目安となる「氾濫危険水位」に到達しました。堤防が壊れるなどにより洪水のおそれがあります。
防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、各自安全確保を図るなど適切な防災行動をとってください。
本通知は、中部地方整備局より洪水のおそれのある市町村に配信しており、対象地域周辺においても受信する場合があります。
（国土交通省）

豊橋河川事務所から配信されたメール内容

緊急速報
【訓練】豊川沿いに避難勧告発令
訓練。こちらは、豊橋市です。
これは、緊急速報メールの配信訓練です。
実際の避難等の行動は必要ありません。
5月30日、10時30分、豊川の水位が上昇し、当古水位観測所で「氾濫危険水位」を超えています。
このため、10時30分、豊川沿いに避難勧告を発令しました。
該当する地区の方は、安全な場所へ避難してください。
避難所への避難が困難な場合は、屋内の高い場所に避難してください。
（豊橋市）

豊橋市から配信されたメール内容

○要配慮者施設の避難訓練を実施（豊橋市 大村こども園）

豊橋市の豊橋市大村こども園において、緊急速報メールの配信訓練と合わせて、洪水を想定した園児の避難訓練が行われました。

（参加者：こども園の職員5人、児童20人、事務局6人：合計31人）



こども園前に集合している様子



移動中の様子



大村小学校到着の様子

No.	21	対象者	【香川県】丸亀市立飯野小学校					
主な取組	自然災害から身を守るための備えに関する班別勉強							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	-	-	-	-	●

「水防災意識社会」の再構築に向けた緊急行動計画に係る取組 ～丸亀市立飯野小学校で試行授業を実施～

- 国土交通省では、「**水防災意識社会再構築ビジョン**」の「**緊急行動計画**」として平成29年6月に「**防災教育の促進**」が位置付けられました。
- この流れを受け土器川では、平成29年よりモデル小学校（丸亀市立飯野小学校）での**試行授業**に対し、**教師用解説書、発問計画書、板書計画書**等の**資料作成の支援**を実施してきました。
- 試行授業の内容は、以下のように4年生授業3コマで実施しました。
 - 1時限目（2/7）：自然災害のおこりやすい国土（教職員単独で実施）
 - 2時限目（2/9）：自然災害からくらしを守るために（国交省職員が一部説明）
 - 3時限目（2/15）：自然災害に備えてできることを考えよう（班別勉強に国交省職員が参加）
- 担当した先生からは、「子供達が普段から身近に知っている土器川が題材であったため、大変効果があった。」「授業の中に国交省職員が入ってくれたことが大変良かった。」「子供達にも勉強になったが、自分も知識が増え今後の指導に役立った。」など取組の成果がありました。
- 今後、作成した防災教育資料を「土器川大規模氾濫に関する**減災対策協議会**」に関連する各市町の学校に**情報共有し**、円滑かつ迅速な避難のための**取組を推進**します。



試行授業の状況①



試行授業の状況②

No.	22	対象者		【鳥取県】倉吉市立高城小学校				
主な取組	過去の水害の危険性等に関する解説、排水ポンプ車の稼働実演							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	-	-	●	●	-

天神川の防災について防災教育(過去の水害とその対策)の実施について



◎実施概要

・平成29年9月30日、倉吉市立高城小学校の全校生徒による土曜日授業の中で、倉吉河川国道事務所による天神川の過去の水害の歴史の説明、災害時に活躍する排水ポンプ車の稼働実演が行われた。また、生徒たちは照明車と災害対策本部車を見学した。

◎実施内容 ・出前講座…倉吉河川国道事務所西村河川管理課長が過去の災害の歴史などの出前講座を行った。



★5、6年生を対象に昭和9年の室戸台風をはじめとする過去の災害事例や、学校の付近を流れる国府川が氾濫した場合、校舎がどのくらい浸水するのかなど身の回りにおこる水害の危険や、垂直避難の大切さを解説した。また平成28年の水質調査において、小鴨川が水質日本一となった事を紹介した。

・排水ポンプ車稼働実演…出前講座のあと、全校児童が学校のプールを使って実際に排水ポンプが水を排水する場面を見学した。



★小学校の2つのプールを使い、大プールから小プールに排水ポンプ2台で実際に水を排水する状況を全校児童で見学した。児童たちは初めて見るポンプの排水に興味深く見学した。ポンプを稼働すると小プールの水がすぐに溢れてしまい、ポンプの能力に驚き、児童たちは活発に質問していた。また、業者の人たちに対する感謝の言葉もあった。

★5、6年生を対象に災害対策本部車と照明車の見学を行った。災害対策本部車には、実際に乗車してみ、内部の広さに驚いていた。

No.	23	対象者		【山口県】防府市立玉祖小学校（5年生）				
主な取組	ハザードマップや避難時の携行品の確認							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	-	-	-	-	-

① 佐波川水系大規模氾濫に関する減災対策協議会

【中国：佐波川】洪水からどうやって身を守る？～流域内の小学校で防災教育の支援を行いました～

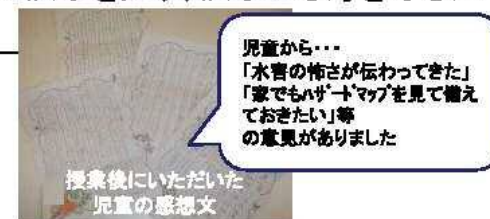
佐波川水系大規模氾濫に関する減災対策協議会では、佐波川流域の小学校において「防災教育の支援（小学校教諭が進める防災授業のサポート）」を行い、5年生約50名が「洪水を知り、洪水から身を守るために必要なこと」を学びました。

実施日時：平成29年10月19日 3～4時限目（90分）

対象：防府市立玉祖小学校5年生 48名

会場：同小学校体育館

実施主体：佐波川水系大規模氾濫に関する減災対策協議会、防府市教育委員会



No.	24	対象者		【北海道】釧路管内の小・中学校の教諭				
主な取組	教諭による川の防災教育に関する意見交換会							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	-	-	-	-	-	-	●

釧路川の防災教育推進に向けて「小・中学校教諭と意見交換」



「河川環境・防災教育」を教科学習に導入できるよう、釧路管内の小・中学校の先生を対象に「川の防災教育を授業で実施するためには？」を考える意見交換を実施しました。

新しい学習指導要領に基づく授業の全面実施に向けて、先生方は「何をどこから教えたら良いのか？」等不安になっています。

今回、釧路管内の教育活動をサポートする釧路教育研究所と連携し、管内の小・中学校教諭を対象に川の防災教育の推進に向けた意見交換を実施しました。

- ・実施日 平成29年8月16日（水）
- ・参加者 釧路管内の小学校教諭 12名
" 中学校教諭 8名
- ・会場 標茶小学校 視聴覚室



- 【意見交換のテーマ】
川の防災教育を授業で実施するためには
- 【意見交換の内容】
・新学習指導要領と河川に係る防災教育の関係
・授業を行う際に必要となる資料
・釧路川版の指導計画や学習素材に向けて 等



自然災害から命を守るためには幼少期からの防災教育が重要であり、災害対応の実務を担う釧路開発建設部では、学校教育における川の防災教育の支援を積極的に行っています。

No.	25	対象者		【北海道】北見市立小泉小学校（5、6年生）				
主な取組	模型実験、マイハザードマップの作成、災害図上訓練（DIG）							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	●	●	-	-	-

【北海道常呂川】ミズから命を守る「川の防災学習会」を実施 (自ら・水から)



- ◆ 北海道開発局網走開発建設部では、常呂川に近接する北見市立小泉小学校において「川の防災学習会」を実施しました。
- ◆ 同校では平成20年度より河川環境や地域への理解を深めるため4～6学年の3ヵ年1サイクルとした「防災・環境教育活動プログラム」を作成・実施し、川での体験活動を取り入れた「生きる力」を養う学習会を行っています。
- ◆ 学習会では、夏の台風による洪水の写真などから被害の大きさを確認し、5学年では学区内のハザードマップを作成。6学年では実際の避難を想定した図上訓練を行いました。



学習会の様子



【学習会概要】

- 開催校 北見市立小泉小学校
(全校児童 599名)
- 5学年(マイ・ハザードマップ作成)
- 開催日：平成28年11月8日（火）
 - 対象：5学年 108名
- 6学年(災害図上訓練(DIG))
- 開催日：平成28年11月7日（月）
 - 対象：6学年 94名

◆常呂川では、大規模な氾濫の発生に備え、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的に推進する「水防災意識社会」の再構築に取り組んでいます。（参考）網走開建HP：<http://www.ab.hkd.mlit.go.jp/kasen/gennsai/index.html>

自然災害から命を守るためには幼少期からの防災教育が重要であり、災害対応の実務を担う網走開発建設部では、学校教育現場における防災教育の支援を行っています。

No.	26	対象者		【福井県】福井県内の小学生				
主な取組	我が家の防災コンテスト（防災マップの作成）							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	-	●	●	-	-

水防災意識社会 再構築ビジョンの取組

2016 家族でかくにん！

わが家のぼうさい コンテスト

同コンテストは、関係市町、県、国でつくる『九頭竜川・北川減災対策協議会』の「逃げ遅れをなくす的確な避難行動のための主な取組」として、改めて水害に對しての減災・防災への意識を喚起！

第3回 わが家のぼうさいコンテストを開催！

福井県内の小学生を対象として、地域の危険な場所や避難場所を盛り込んだ「防災マップ」の作成に取り組んでもらいました。

なお昨年に引き続き、参加者数の増加に向け主催者である「ふくいの水防災を考える会」等の連携の他、今回は『九頭竜川・北川減災対策協議会』の取組みとしても進めた結果、新たに6校からの応募により295点もの応募（昨年の1.7倍）があり、本人をはじめ協力したご家族や地域の方々の防災意識を高めることに寄与しました。

（一昨年度95点、昨年度178点）

応募対象：福井県内の小学生

募集期間：平成28年7月1日(金)～

平成28年9月8日(木)

審査会：平成28年9月16日(金)

表彰式：平成28年10月10日(月)

主 催：ふくいの水防災を考える会

NHK福井放送局

福井新聞社

後 援：福井県教育委員会



最優秀作品



受賞者（40名）

【応募総数295点】

最優秀賞 東郷小5年 浅田 美緒
優秀賞 豊小5年 林田 ひなた
同上 春江小5年 西畑 勝人
特別賞2名・入選12名・奨励賞23名

防災教室、実験コーナーでの体験学習、防災パネル展、起震車体験、受賞作品のパネル展示

表彰式にあわせて、審査委員長（辻子先生）による防災教室や福井地方気象台による実験コーナーでの体験学習、福井市による防災パネル展や起震車体験、受賞作品のパネル展示などを行いました。



【問い合わせ先】 国土交通省 近畿地方整備局 福井河川国道事務所 調査第一課
〒918-8015 福井市花室南2-14-7
TEL 0776-35-2661

2016 家族でかくにん！
わが家のぼうさい
コンテスト
入賞作品紹介

ふくいの水防災を考える会、関係市町、県、国でつくる『九頭竜川・北川減災対策協議会』の「逃げ遅れをなくす的確な避難行動のための主な取組」として、改めて水害に對しての減災・防災への意識を喚起！

第3回 わが家のぼうさいコンテストを開催！
福井県内の小学生を対象として、地域の危険な場所や避難場所を盛り込んだ「防災マップ」の作成に取り組んでもらいました。

なお昨年に引き続き、参加者数の増加に向け主催者である「ふくいの水防災を考える会」等の連携の他、今回は『九頭竜川・北川減災対策協議会』の取組みとしても進めた結果、新たに6校からの応募により295点もの応募（昨年の1.7倍）があり、本人をはじめ協力したご家族や地域の方々の防災意識を高めることに寄与しました。

（一昨年度95点、昨年度178点）
応募対象：福井県内の小学生
募集期間：平成28年7月1日(金)～平成28年9月8日(木)
審査会：平成28年9月16日(金)
表彰式：平成28年10月10日(月)
主 催：ふくいの水防災を考える会
NHK福井放送局
福井新聞社
後 援：福井県教育委員会

最優秀作品

受賞者（40名）
【応募総数295点】
最優秀賞 東郷小5年 浅田 美緒
優秀賞 豊小5年 林田 ひなた
同上 春江小5年 西畑 勝人
特別賞2名・入選12名・奨励賞23名

防災教室、実験コーナーでの体験学習、防災パネル展、起震車体験、受賞作品のパネル展示

表彰式にあわせて、審査委員長（辻子先生）による防災教室や福井地方気象台による実験コーナーでの体験学習、福井市による防災パネル展や起震車体験、受賞作品のパネル展示などを行いました。

2016 家族でかくにん！
わが家のぼうさい
コンテスト
入賞作品紹介

ふくいの水防災を考える会、関係市町、県、国でつくる『九頭竜川・北川減災対策協議会』の「逃げ遅れをなくす的確な避難行動のための主な取組」として、改めて水害に對しての減災・防災への意識を喚起！

第3回 わが家のぼうさいコンテストを開催！
福井県内の小学生を対象として、地域の危険な場所や避難場所を盛り込んだ「防災マップ」の作成に取り組んでもらいました。

なお昨年に引き続き、参加者数の増加に向け主催者である「ふくいの水防災を考える会」等の連携の他、今回は『九頭竜川・北川減災対策協議会』の取組みとしても進めた結果、新たに6校からの応募により295点もの応募（昨年の1.7倍）があり、本人をはじめ協力したご家族や地域の方々の防災意識を高めることに寄与しました。

（一昨年度95点、昨年度178点）
応募対象：福井県内の小学生
募集期間：平成28年7月1日(金)～平成28年9月8日(木)
審査会：平成28年9月16日(金)
表彰式：平成28年10月10日(月)
主 催：ふくいの水防災を考える会
NHK福井放送局
福井新聞社
後 援：福井県教育委員会

最優秀作品

受賞者（40名）
【応募総数295点】
最優秀賞 東郷小5年 浅田 美緒
優秀賞 豊小5年 林田 ひなた
同上 春江小5年 西畑 勝人
特別賞2名・入選12名・奨励賞23名

防災教室、実験コーナーでの体験学習、防災パネル展、起震車体験、受賞作品のパネル展示

表彰式にあわせて、審査委員長（辻子先生）による防災教室や福井地方気象台による実験コーナーでの体験学習、福井市による防災パネル展や起震車体験、受賞作品のパネル展示などを行いました。

No.	27	対象者		【兵庫県】豊岡市立八条小学校（5年生）				
主な取組	紙芝居「台風がきたぞ」による台風への備えの学習、災害実験（洪水実験、台風発生実験、土石流実験）、災害時の行動検討、被災写真のパネル展示							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	●	●	-	●	-	●	●	-

約100名の親子と地域防災学習会を開催しました！

H29.7.1

～みんなと一緒に考えよう！水害への備え～

豊岡河川国道事務所

円山川流域では、地域の防災力向上を目的に防災学習会を平成23年より継続的に開催しております。今回は豊岡市立八条小学校の5年生のPTA活動の時間を活用し、子どもと大人が大雨時の行動について考える地域防災学習会を開催しました。大雨の怖さや平成16年23号台風の経験を子どもたちに伝え、親子で災害から身を守ることにについて考える企画に約100名の方が参加され、防災への関心の高さがうかがえました。

- 平成29年7月1日(土)9:30～11:00
- 開催場所: 豊岡市立八条小学校 多目的ホール
- 参加者: 八条小学校の5年生 約50名 保護者 約50名
- 共催: 豊岡河川国道事務所、兵庫県但馬県民局、豊岡市
- 協力: 兵庫県防災士会但馬エリア豊岡ブロック
- 内容
 - ・紙芝居「台風がきたぞ」(東京消防庁協力作品)
 - ・災害実験(洪水実験、台風発生実験、土石流実験)
 - ・大雨時の行動を考えよう
 - (豊岡市からの情報提供、八条地区区長会長からのお話、グループワーク)
 - ・国からの情報提供(河川を元気にする取り組み)
- ※廊下にパネル展示を実施(6/29～7/5の期間)



実施状況

紙芝居



台風の備えなどを紙芝居形式で学びました。

災害実験



3班に分かれて、3つの災害実験を順番に体験しました。どの実験も子どもたちが身を乗り出しながら観察し、休憩時間になっても実験のブースを離れようとしないうる興味津々な様子でした。



3班に分かれて、3つの災害実験を順番に体験しました。どの実験も子どもたちが身を乗り出しながら観察し、休憩時間になっても実験のブースを離れようとしないうる興味津々な様子でした。

国からの情報提供



当事務所の若手職員から「河川を元気にする取り組み」について説明しました。

大雨時の行動を考えよう



豊岡市から出水時に発表する情報を説明いただき、地元区長からはH16年台風で被災した際の自宅の浸水被害状況を写真を変えてお話いただきました。



グループワークでは自分の家を地図で確認し、大雨時にどこに逃げたいのかを地図に記載しました。できあがった地図は教室に掲示し、他の生徒にも見られるようにしました。

パネル展



H16年の被災写真を中心に掲示しました。パネルを指さしながら、お母さんにそのときの話を聞く児童のみなさんの様子も見受けられました。

【参加した児童のみなさんの感想】

- ・紙芝居がわかりやすかった。
- ・台風のでき方や土砂実験についての実験がたのしかった。
- ・自分の近くが水没するかもしれないことや台風での準備など勉強になった。

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
豊岡河川国道事務所調査課
〒668-0025
兵庫県豊岡市幸町10-3
TEL 0796-22-3126(代表)



No.	28	対象者		【愛媛県】大洲市菅田小学校（5年生）				
主な取組	平成30年7月豪雨の被災児童への質問会とフォローアップ							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	-	-	-	-	-

肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会の取組 ～大洲市菅田小学校で試行授業後のフォローアップを実施しました～

【大洲市菅田小学校で試行授業後のフォローアップを実施】

■平成30年に試行授業を実施した大洲市菅田小学校 5年生児童へのフォローアップ

- ・大洲市菅田小学校では、平成30年5月に水災害教育の試行授業を行いました。
- ・その後、平成30年7月豪雨を経験した児童から、自助・共助・公助等の具体的な質問を受け、令和元年7月にフォローアップを実施し、知識を深め防災意識を高めました。

菅田小学校 フォローアップ授業の様子



質問・疑問への回答・解説



防災グッズを手に取る児童

■大洲市菅田小学校5年生児童からの質問内容

災害に対する備えについて

- ・保存食の必要性や、食料以外に備えておけばよいものはあるか
- ・すぐ逃げるために、何を準備し、どこに置くべきか
- ・日頃、自分や家族でできる対策
- ・自然災害に備えた、どんな設備（堤防や機器、施設など）があるのか

支援物資について

- ・どういう基準で物資が届くようになるのか（災害の規模との関係は）
- ・どこから菅田にきたのか
- ・給水車の水はどこからきたのか
- ・どんなものが送られてきたのか（種類別、量/日）
- ・だれが、中心となって動いたのか
- ・使った人はどんな気持ちだったのか
- ・菅田から、他地域へ送ったことはあるのか

土砂崩れについて

- ・起きた時に、どんな行動をとればよいのか
- ・備えておいた方がよいものは、何か
- ・菅田に何回起きていたのか

南海トラフ地震について

- ・菅田は、どれくらい揺れて、どんな被害の可能性があるのか

避難について

- ・水が、どれくらい来たら避難するのか
- ・震度がどれくらいで避難すべきか
- ・避難場所が使えないとき、どうするのか
- ・菅田に避難所は、いくつあるのか
- ・家からでられなくなったら、どうすればいいか
- ・避難場所が遠い人は、どうすればいいか
- ・どのようなタイミングで避難すればいいか

防災グッズについて

- ・最低備えておいたらよいもの
- ・長持ちする飲食物は
- ・防災グッズの種類
- ・何人の人が防災グッズで助けられたのか
- ・防災グッズは、どんなときに役立つのか
- ・どこで売っているのか

その他

- ・菅田の水害は、なぜ被害が大きかったのか

No.	29	対象者		【徳島県】徳島県立那賀高等学校（防災クラブ）				
主な取組	那賀川の水害等に関する座学、簡易水質調査、ドローン操作体験、高水流観の実習							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	-	-	●	-	-

那賀川水系大規模氾濫減災協議会 平成30年10月 取組状況

■ 取組

1. 円滑かつ迅速な避難行動のための取組

（1）平時から住民等へ避難行動のための周知・教育・訓練に関する事項

- ⑦地域の寄り合い、各種団体の研修会、小中学校等における水防災意識社会再構築ビジョンに関する教育・訓練を実施

【四国地整】

那賀川河川事務所では、平成30年10月27日（土）に、徳島県立那賀高等学校から依頼を受け、防災クラブの生徒を対象に出前講座を実施しました。

今回の講座内容では、前半は高校において那賀川の水害等に関する座学、後半は那賀川に出向いて簡易水質調査やドローン操作体験、高水流量観測の実習を行いました。

高水流観の実習では、実際に橋の上から浮子（ふし）を投下し、第1見通し杭と第2見通し杭を通過する時間を計測し、川の流速及び流量の算定手順を学んでもらいました。現場に出て体験してもらうことにより、防災をより身近に感じてもらえたと思います。

今後も、高校などの関係機関と連携を図りながら、防災教育に関する支援を続けていきたいと思っています。



写真-1 高水流観での浮子投下



写真-2 現地での水質調査（バックテスト）



写真-3 雨量計の構造説明



写真-4 ドローンの説明

No.	30	対象者		Ⅰ【茨城県】常総市立玉小学校（5、6年生） Ⅱ【茨城県】結城市立絹川小学校（4年生） Ⅲ【茨城県】常総市立石下中学校（2年生） Ⅳ【茨城県】筑西市立養蚕小学校 Ⅴ【茨城県】筑西市立河間小学校				
主な取組	Ⅰ 若宮戸工事現場見学 Ⅱ 洪水時に気をつけることの説明 Ⅲ 防災、減災に関する教育 Ⅳ 大雨洪水時の避難訓練 Ⅴ 洪水時に気をつけること等の説明							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	Ⅰ -	-	-	-	-	●	-	-
	Ⅱ -	●	-	-	-	-	-	-
	Ⅲ -	●	-	-	-	-	-	-
	Ⅳ -	-	-	●	-	-	-	-
	Ⅴ -	●	-	-	-	-	-	-

『防災教育（出前講座）』（小中学生向け）の実施

○水防災の意識浸透を、低年齢層から図る一環として、小・中学生向けの防災教育を実施。
⇒6/7に常総市玉小学校5、6年生41名を対象とし、若宮戸工事現場見学会、洪水時に気をつけること等を説明。
⇒6/30に結城市絹川小学校4年生43名を対象とし、洪水時に気をつけること等を説明。
⇒7/6に常総市石下中学校2年生126名を対象とし、防災、減災に関する教育を実施。
⇒9/1に常総市の小・中学校で防災に関する授業を実施。
⇒9/2に筑西市の養蚕小学校で全児童353名による大雨洪水時の避難訓練を実施。
⇒9/9に筑西市の河間小学校において洪水時に気をつけること等を説明。

平成28年6月7日 常総市玉小学校



平成28年7月6日 常総市石下中学校



※今後も、小・中学校等へのアプローチを積極的に実施予定。

鬼怒川・小貝川減災対策協議会

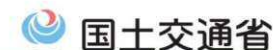
「水防災意識社会」の再構築を目指します。

No.	31	対象者		【岐阜県】養老町立養老小学校（5年生）				
主な取組	アニメ・模型による土砂災害の危険性の学習、防災カードゲームの体験（土砂災害）							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	●	●	-	●	-	-	-	-



木曽川上流水防災協議会の取り組みの一環として

養老町立養老小学校で土砂災害に関する防災教育を実施



木曽川上流河川事務所

岐阜県養老町立養老小学校において、5年生を対象に総合的な学習の時間として、5月31日にリリースされたばかりの防災教育ツール（土砂災害に関するアニメ映像やカードゲーム等）を初めて活用した防災教育を実施しました。

- 日 時：令和元年6月18日(火) 9:45～12:30(45分×2コマ)
- 場 所：岐阜県養老町立養老小学校
- 対 象：養老小学校5年生(2クラス)対象
- 内 容：土砂災害に関する講座
 - *前半…アニメ映像や模型をもとに、土砂災害の危険性を知る
 - *後半…防災カードゲーム(土砂災害編)『とるとるカード! (防災かるた)』を通じて、いざという時の行動について考える

～ みんなの声 ～

- ・今まで土砂災害を見たことがなかったけど、今日アニメとかを見て、土砂災害の危険さがよく分かった。
- ・インターネットなどで情報を調べて、すばやく避難できるようにこれからの生活でも気を付けていきたい。
- ・2時間勉強した土砂災害のことをお母さんたちやいろんな人に伝えて、土砂災害がもし起きたときに、今日学んだことを活かしたい。
- ・土砂災害はいつ起こるか分からないから、起こらないと思わず、いつでも意識して自分の身を守りたい。

前半：土砂災害の説明・映像視聴



4年時の学習の振り返り



土砂災害の概要について説明



アニメ映像を使って、
命を守る行動・備えについて学習



模型を使って、
対策や避難の重要性について説明

後半：防災カードゲーム(土砂災害編)の体験



防災カードゲームについて説明



防災カードゲームの体験



児童から感想の発表



まとめ

No.	3 2	対象者		【岐阜県】岐阜市立岐阜小学校（4年生）				
主な取組	マイ・タイムラインの作成、避難時の行動についての話し合い							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	●	-	-	-	-



木曽川上流水防災協議会の取り組みの一環として

岐阜市立岐阜小学校で行われた公開授業にゲストティーチャーとして参加



国土交通省

木曽川上流河川事務所

岐阜市立岐阜小学校において開催された第57回全国小学校社会科研究協議会研究大会（岐阜大会）の4年生公開授業にゲストティーチャーとして参加しました。

- 日時: 令和元年11月1日(金) 10:00～10:45(45分)
- 場所: 岐阜市立岐阜小学校
- 対象: 岐阜市立岐阜小学校4年1組
- 内容: 自然災害からくらしを守る～長良川とともに生きる～
長良川の水害から身を守るために、大雨が降り、洪水が予想される時の行動について話し合うことを通して、地域の一員として、地域の防災のために自分のすべき行動について考える。

①グループワーク：マイ・タイムラインの作成



いつどんな行動をすればよいかをグループごとに話し合い、ホワイトボードにマイ・タイムラインを作成

～ みんなの声 ～

- マイ・タイムラインは1人1人みんな違って、違う意見もあると思います。川沿いに住んでいる人は1～2日前ぐらいに避難したほうが良い。避難ルートや持ち物を確認するのは、3日前ではなく、1週間前などもっと早く事前に確認しておく方が安心して逃げられると思います。
- 雨や風が強くなってから情報を確認するのは手遅れだと思う。2～3時間で水位がいっきに上昇することがあるので、台風が発生したら頻繁に確認しておいた方がいいと思います。

②木曽川上流河川事務所より講評



木曽川上流河川事務所よりグループワークについて講評

～ 講評 ～

- 自分の家はどこなのか、どの避難ルートを使うかなど、水害時の行動を具体的に考えていて素晴らしいかったです。
- マイ・タイムラインを作ることで、どんな行動をしたら良いか・何が重要か考えられたと思います。
- いま話し合ったことは、全て自分でできますか？家族の人にやってもらうこともありますよね。本当に自分でできることは何でしょうか？

③グループワーク：10歳の自分にできること



実際に自分たちには何が出来るか話し合い、発表

～ みんなの声 ～

- 情報を確認することだと思います。私たちはスマホは持っていないけど、テレビやお母さん達のスマホを借りて確認することができます。
- 持ち物を準備するのは親がいないとできない事もあるけど、家の2階など高い所に逃げることができると思います。
- 家族と一緒に近所のおじいちゃん・おばあちゃんに呼びかけをすることもできると思います。
- 私には弟がいて、歩くのが遅いので他人より早めに避難しないといけません。高いところに避難するのもそうだけど、やっぱり避難所に早めに避難することが大事だと思います。

No.	3 3	対象者		【静岡県】沼津市立大平小学校（4年生）				
主な取組	ハザードマップの確認、「語り部」による狩野川台風の水害体験談							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	●	-	-	●	-

「語り部」による狩野川台風体験談 沼津市立大平小学校にて防災出前講座 中部地方整備局

狩野川下流域に位置する沼津市立大平小学校の4年生を対象に、狩野川流域の特徴、過去最大の被害となった狩野川台風(S33.9)、狩野川放水路の効果、水害への備えについて学習する防災出前講座を実施しました。この防災出前講座の中では、「語り部」の方に狩野川台風の体験談を話していただきました。

- 日 時：平成29年6月26日（月） 13:45～14:30
- 場 所：沼津市立大平小学校
- 参加者：小学校4年生 37名
沼津河川国道事務所職員 3名
語り部（狩野川資料館ボランティアガイド）1名
- 内 容：過去の太地区の水害被害状況説明
映像鑑賞（狩野川台風・水害への取り組み）
「語り部」による体験談
水害への備えについての学習
（大平小学校版ハザードマップ、
等身大浸水深模型、水害時の行動）



沼津河川国道事務所による
水害に関する説明



「語り部」による
狩野川台風の体験談

大平小学校

ハザードマップ

等身大浸水深模型

○ 情報を確認する

○ 事前に準備する

○ 高い所へ上げる

○ ひなんする

水害時の行動

「水害への備えについての学習」
おおひら

児童が通学している大平小学校の学区を切り出したハザードマップを活用し、自宅や学校の浸水深を調べ、等身大浸水深模型を用いて、自分の身長と浸水深を比べることで危険性を認識しました。

さらに、大雨が降った時や、水害時に自分達が行うべき行動について学習しました。

No.	3 4	対象者		【大分県】大分市立戸次中学校（ふれあいPTA）				
主な取組	ワークショップ形式での通学路における防災マップづくり							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	-	●	-	-	-

保護者、教員、子供が一体となった防災講座、訓練等を実施



- 協議会の取組として、「大分市立戸次中学校のふれあいPTA」で、生徒、保護者、教員の約600人と一緒に防災講座を実施しました。（H28.11.27）
 - 協議会の構成員である大分市や大分地方気象台、国交省から防災に関する説明の後、ワークショップ形式による通学路における防災マップづくりも実施しました。
 - 講座終了後には、学校、PTAによる生徒引渡し訓練や、非常食づくり・試食体験等が実施されました。
 - 参加者からの感想やアンケート結果等を踏まえて、今後の取組にも活用したいと考えています。
- ※出前講座の実施状況は、大分県教育委員会等のHPでも取り上げられました。



会場の状況



各機関による防災講座



防災マップづくり



PTAによる非常食作り・試食体験

（参加者からの感想）

- ・親子で勉強することで、お互いが理解できて良かった。子供の目線は保護者と違って勉強になった。
- ・川の水位レベルを、テレビやネットで知ることが出来ると知らなかった。帰って見てみたい。

出前講座のアンケート結果

2. 国土交通省の「大野川における過去の洪水被害や防災への取組」の講座

- 今回の講座に参加する前に、水位のレベルについてご存じでしたか？
- 講座を受けて、水位のレベルについて理解できましたか？



後藤の「この実践に学びたい」(22)

日常に潜むリスクを見ぬけ！ ～親子で取り組む戸次中の防災教育～



学校、職場と離れて被災する想定をして、親子の引き取りカードを使っている様子。こういう取組を知ってとても安心しました。（保護者）



最後みんなで食べた非常食も、思いのほか美味しかったので、とても良い経験となりました。

No.	3 5	対象者		【静岡県】 静岡市立井宮小学校				
主な取組	副読本「徳川家康公と安部川物語」を用いた河川防災講座							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	-	-	-	-	●

安倍川治水の歴史副読本による水防災教育

■ 歴史副読本の寄贈と河川防災講座

- ・ 安倍川治水の歴史を学び防災意識を育んでいただくため、**小学生用の副読本「徳川家康公と安倍川物語」**（静岡河川事務所職員が執筆）を作製し、静岡市教育委員会を通じて沿川小学校へ寄贈。
- ・ 新聞報道や副読本を読んだ教育関係者及び経済界などからの多数の問合せがあり、地域からの要請を受けて、各地で『河川防災講座』を実施中。



副読本の贈呈式の様子（H28.5.18）



副読本を下に、郷土の歴史を学んだ児童たち



河川防災講座の様子（H28.6.23 高齢者学級 みのにり大学）



河川防災講座の様子（H28.6.29 静岡市立井宮小学校）

■ 歴史副読本が企業向け水害教育にも活用

- ・ 一般企業と連携し、副読本「徳川家康公と安倍川物語」が、企業情報誌に形を変えて、「水の日」である8月1日に、全国の関連企業4,000社に配付。
- ・ 今回の企業情報誌が、企業向けの水害教育にも活用が期待されている。



No.	3 6	対象者		【北海道】音更町立木野東小学校（4年生）				
主な取組	ハザードマップの確認、避難路の街歩き（H28）							
防災教育の カテゴリー	①水害発生等の 仕組みの学習	②水害リスク・ 対策等の学習	③水防活動に 関する体験	④避難行動の 確認（訓練等）	⑤地域の安全・ 危険な場所の 把握（街歩き等）	⑥体験型施設 の利用・見学	⑦被災記録 の伝承	⑧教材作成、 教諭との連携等
	-	●	-	-	●	-	-	-

児童ら自らが実際に避難路を歩き防災について学びました

◆平成28年8月の大雨により、音更町市街地を貫流する音更川では音更水位観測所にて戦後最大である昭和56年8月洪水を上回り、既往最大の水位を記録しました。多くの児童が音更川の増水状況を経験した木野東小学校において音更町の協力を得ながら防災教育を実施しました。

実施日：平成28年11月1日（火）

対象校：音更町立木野東小学校 第4学年（児童数125人）

主催：音更町（総務部 情報・防災課）

協力機関：北海道地域（とち）防災マスター、警察、北海道開発局 帯広開発建設部 治水課・帯広河川事務所

目的：【自助】洪水時の避難先までのルート確認し、非常時に備える。

【公助】避難ルートを歩いたときに感じた危険な箇所など聞き取り、避難路の安全向上に努める。

実施内容：避難所（下音更中学校）までの避難ルートを実際に歩きましょう！

「避難に資する情報について、自らが知ったときにとるべき行動」、「普段見慣れた風景でも大雨時は危険な箇所が潜んでいること」を実際に避難路を歩きながら学びました。



音更町防災ハザードマップを説明する音更町職員



避難路途中の危険箇所を説明する防災マスター